

ウクライナ・カニウ 国際石彫シンポジウム 2019

ウクライナ キエフの南150キロにあるカニウの町外れに Chervonechorne（チェルボノチェルノ）アートグループの施設がある、ホテル、石彫スタジオ、ギャラリー、屋外彫刻展示場、屋内スタジオ等があり、黒海に注ぐ大河ドニエブルの川沿で、近くにウクライナの偉人タラス・シェフチェンコの博物館、モニュメントがあり風光明媚な観光の地でもある。

カニウ・シンポジウムはこの地で10年以上続いている石彫シンポジウムで、今年は文化財団の支援を受けた特別な年であり取材や行事、が盛り沢山であった。

主 催 チェルボノチェルノ・アートグループ
Yury Stashkiv, Ekaterina Dovgairo, Natalia Bondarenko,
Koasno Ckorno、(ウクライナ文化財団)

参加作家 リュドミラ・ミスコ（ウクライナ）、アレクサンダー・ディアチェンコ（ウクライナ）、ニコラス・ボーフィルズ・エレンス（カナダ）、ローランド・ホフト（ドイツ）、ヴィンセント・ボーフィルズ・フルディガス（フランス）、八木ヨシオ（日本）

会 期 2019年9月2日～9月28日
21日 レクチャー、各作家スライドによる発表、制作過程見学会
28日 展覧会、クロージングパーティー



黒海に注ぐ大河ドニエブル川 Киевからの大型客船も航行する、釣りの名所。



快適なホテル、20名の女性がローテーションで働いている
男性はキッチンとガーデナー4名。



S N S 特派員三田氏とローランド



メインディッシュ、川魚のムニエル、ドニエブル川の魚
はパーチ、パイク、川カマスなど白身の魚、スープは野菜のブイヨン薄塩で素材の味を大切
にする健康食である。



制作中の八木作品と背景はアートギャラリー。



55センチ角の箱抜き、一週間で費やす、今では鑿切りがめずらしい。



不思議でユニークなヴィンセント、



サーシャと彼の作品、ソ連時代の廃屋の
スタジオ&ギャラリー



原村の芋焼酎「はらしょ」を披露する。



ホリヨーカ（ウオトカ）の愛好家アレキサンダー
味わいの良さを愛でる。



キエフ・オペラハウス5年前のユーロマイダンの騒ぎもあったであろう。



台座に設置、



美術展と共に作品のお披露目、キエフからバスをチャーターして美術家、画廊関係者、学生にレクチャーをする、シカゴからのキュレーターも参加。



ローランドの作品、エッジの磨きが作品を引き締めている、



ヴィンセントの制作過程
テーマは「水」、



〔修行僧の瞑想の場〕 上昇する階段を目で追い岩窟へ辿り着く追体験の遊び、
 石材に就いての考察・自然石と切り出された石、
 切削面と鑿切り、抉り取られた空間、身体作業もテーマのひとつ。



日没のドニエブル川